

平成24年度東北ブロック会議開催

昨年は東日本大震災のため開催を中止し2年ぶりに平成24年11月17日に開催いたしました。

東北ブロックは各県共に維持会員数も少なく、かつ維持会員の負担を最小限に押さえて会費の値上げもせず、細々とした活動を続けています。

今回は活動費の軽減のため仙台市で会議を開催しましたところ、本部からは、濱村事務局長の出席をいただき、各県とも出席経費の捻出が難しく、出席は11名と少数でした。

会議の概要は次のとおりです。

自己紹介の後、濱村事務局長から近況と課題についての報告、

続いて今後の東北ブロック会議のあり方について討議しました。

①東北ブロックは、役員の選出については、各県持ち回りの輪番制を取っていることから、この度麻布獣医学園の学園評議員任期が3年から4年に改正されたことにともない、これに準じてブロックの輪番制担当の見直しを行った。

②近況報告や各県の課題を出し合い討議を進めたが、各県の課題として、若手維持会員の加入、参加が少なく、かつ維持会員は高齢化が進み、このままでは支部活動そのものが出来なくなる。

また、高齢者の同窓会員から、支部同窓会活動を脱会したい旨の手紙が寄せられているとの報告もあった。若いときに活動した経歴をも踏まえ、一定の年齢に達したら「名誉会員」などの制度を検討するよう本部にお願いしたいとの要望も出された。

③若手維持会が各支部に参加しないのは、学生時代から同窓会や県人会などを意識するよう育成すべきである。同窓会本部や大学では、「学生の自主性に任せてと云うが、現代の学生に自主的行動を待っていても立ち上がらないので、同窓会本部活動の一環として学生に県人会等を組織させてほしいとの意見も出された。(学生も立派な準会員なのだから)

この話は前回もまったく同じ意見が出されたが今回もまた再び出された。

一方、秋田県支部では、獣医師が主体となる支部から脱却するため、支部の名称を「麻布大学秋田県校友会と改正し獣医学部以外の方々にも出席しやすいように配慮した旨の報告があった。各県とも獣医師が中心で開催されている現状にあるが、如何にしたら他の学部の方々も参加してくれるのか今後とも大きな課題であると思われた。

④創立125周年記念事業に対する意見としては、「募金目的をはっきりさせてほしい」「寄付しやすい環境(税額控除など)を整備してほしい」「博物館・資料館の設立には賛同するが、維持管理経費をしっかりと検討し、ただの倉庫にならないようにしてほしい」などの要望が出された。

以上、会議内容を簡単ご紹介しましたが、2時間以上も熱心な議論がなされました。

末尾になりますが、濱村事務局長には遠路仙台までおいで頂き誠に有難うございました。感謝申し上げます。

追伸

勿論、みんなで懇親会を行い、楽しいひとときを過ごすことが出来ましたことを申し添えます。

東北ブロック長・青森県支部長 竹内 重正(H24.12月吉日 記)